

大学女性協会東京支部

2009. 3
第45号



メキシコ市に思いをさせて



JAUW会長 房野 桂

東京支部の皆様、いつも本部の行事にはいろいろとお世話になり、ありがとうございます。会員数わずか30余名の中から、多数の理事を送り出している神奈川支部の会員として、いつも人材豊富な東京支部を羨望のまなざしで眺めております。さて、新春のつどいでは、メキシコからのテキーラをお楽しみいただけましたでしょうか？

メキシコ・シテイでの次回I F U Wの準備委員長であり、メキシコ大学女性連盟会長でもあるグレンダが、写真家である娘さんを連れてJAUW事務所を訪ねてきたのは、昨年1月22日のことでした。彫刻家であるグレンダは、個展の打ち合わせで東京に来たとのことでした。その時のお土産があのテキーラだったの

です。JAUWからは藤娘のお人形をプレゼントしました。

JAUWが横浜で第25回I F U W総会を開いて以来早や19年！来年は、メキシコ・シテイで第30回総会が開かれます。

メキシコ・シテイと言えば、第1回世界女性会議（国際婦人年世界会議）が開かれ、日本は当協会の初代会長である藤田たき氏を政府代表として送った都市です。JAUWは、岡山で開催された総会で、国際婦人年アピールを採択し、I F U Wとメキシコ大会に英訳したものを送りました。国際婦人年連絡会が結成されたのもこの年です。

JAUWが第18回I F U W総会を東京と京都で開催したのがその前年の1974年で、その翌年に女性の世界大会が開かれたのは、横浜総会の直後に、歴史的な第4回世界女性会議が北京で開かれたのとどこか相通じるものがあるように思えてなりません。

来年は、女性の歴史を刻んだメキシコ・シテイにみんなで出かけませんか？ 高度の高いメキシコ・シテイですが、グレンダによれば、みんなが吸う酸素は十分にあるそうです。

事業報告・予定

8・15	見学会「横浜ローザ」観劇
10・25	JAUW主催シンポジウム「ワーク・ライフ・バランスをめざして」於・女性と仕事の未来館ホール
11・26	講演会「アサーションという自己表現」
12・13	講師 平木典子氏 第8回自然科学講演会（科学研究奨励委員会と共催）
1・10	「脳の高次機能をさぐる－子どもの脳のふしぎ」 講師 浜崎浩子氏 新春のつどい・国内奨学金贈呈式
1・26	法人改革説明会
2・20	講演会「暮らしに生きる宇宙」講師 多屋淑子氏
3・1	東京支部会報「ともしび」第45号発行
3・9	国際奨学生研究報告会 (国際奨学委員会と共催) ファティル・ゼイレク氏 ニラ・シャルマン氏
3・31	總持寺拝観
5・9	JAUW第52回通常総会 於・新潟
5・16	東京支部総会
5・10	記念講演「中年女の生きる道」講師 土屋賢二氏
6・30	講演会 講師 伊集院葉子氏

以後の事業は追ってお知らせします。

JAUW主催 シンポジウム 「ワーク・ライフ・ バランスをめざして」

参加報告

東京支部長 森川 淳子

10月25日、田町駅前の女性と仕事の未来館で「ワーク・ライフ・バランスをめざして」育児・介護等を含めたケア・ワークへの男女共同参画のシンポジウムが開かれました。内閣府男女共同参画推進連携会議・女性と仕事の未来館との共催です。会員111名、一般87名、関係者13名の参加でした。共催ということもあり一般の参加者が多かったことは、今後公益認定法人を目指す上で成功であったでしょう。

午前は、大沢真理氏による「真のライフ・ワーク・バランスの実現のために、社会政策の改革と、生活の協同が必要である」との基調講演に始まり、4委員会、4支部の事例報告がありました。調査研究、あるいはご自身の体験の報告がありました。定家陽子さんは盲導犬を連れて

の出演でした。

午後には、5人のパネリストと房野会長とのパネルディスカッション



も多々ありました。東京支部会員からも多くの参加者があり、また会場係として協力いたしました。

シンポジウムに参加して

大学婦人協会から大学女性協会に名称変更後の初のシンポジウム「ワーク・ライフ・バランスをめざして」が、内閣府男女共同参画推進会議と共催で10月25日(土)、港区芝にある女性と仕事の未来館で開催されました。最近よく見聞きするワーク・ライフ・バランスとは、仕事と生活の調和を図り、就労により経済的自立をし、健康で豊かな生活を確保できる社会の実現をめざすこと、と思います。ますます深刻化している少子・高齢化社会の問題解決に、このワーク・ライフ・バランスは大きく関わっています。特に働き盛りの世代にとってこのバランスの安定こそが最優先課題だと思います。やと行政サイドも目を開き、推進に協力的になってきたようです。

今年、例年と違いイベント業者が入り、手話通訳付き、保育施設有りなど、何かと勝手の違うこともありましたが、今後の参考になること

今回のシンポジウムにあたって、内閣府もJAUW、IFUWの持つ情報や活動が有効と認め、ワーク・ライフ・バランスの普及のために共

催の受諾となったのだと思います。

基調講演は大沢真理氏。午後のパネリストは池田守男氏、春日キスヨ氏、樋口恵子氏、山口洋子氏、山田正人氏とそうそうたる顔ぶれ、話上手で聞きごたえがありました。

午前の部の事例報告は、机上ではない現場からの声としての発言で、共感もあり、興味深いものでした。ただし、持ち時間が短く、重いテーマだけに、もっとゆっくり聞きたいという思いを強くしました。

確かにシステム作りは進められているようですが、現実と実践のギャップはまだ大きく、社会全体の理解と協力をますます深めなければ明るい未来は期待できないと再確認してしまつた会でした。

(荻澤 紗知子)

今年の東京支部総会は
5月16日(土)です。
詳細は8ページをご覧ください。

臨時評議員会報告及び

法人改革の説明会報告

1月10日、「新春のつどい」の後、京王プラザホテルで「臨時評議員会」が開かれた。出席者は会長以下理事・監事21名評議員25名特別委員会委員6名の計52名であった。

冒頭、百年に一度といわれる法人改革によって当協会も平成20年12月1日から従来の社団法人が自動的に特別民法法人へと移行したことと現在、公益社団法人の認定を目指して「公益社団法人認定申請準備のための特別委員会」が準備を進めている等の報告があった。

次に今後の支部の扱いについての説明があった。新しい認定の基準では支部の事業・経理は本部と一体のものとして、公益目的事業比率、遊休財産額の見込みなどを計算し、各事業年度に係る計算書類は法人全体のものを作成する必要がある。従って平成22年の認定申請のためには、とりあえず平成21年度の予算・決算を新しい様式に切り換えて欲しいとの要請があった。本部・支部会計を一本化する具体的会計処理案が例示され、それについて質疑応答が行われた。

1月26日、東京支部主催で「法人改革の説明会」が津田塾大学同窓会会議室で開かれた。参加者は34名であった。まず森川支部長より臨時評議員会で配布された資料を使用して報告された。次に海老根特別委員会委員長、阿部同副委員長より公益法人化への当協会の取り組みの経緯と今後の対応について説明があった。

その後の参加者との質疑応答では次のようなことが話題となった。紙幅の関係上関心が高かったものを紹介する。
各支部で留保している運営費はどのくらい扱われるのか。
公益性、共益性、その他の事業の区分と公益社団法人選択の利点は何か。

本部・支部の事業の一体化と各支部の独自性。
今後、各支部の事業を公益目的事業の別表23項目中どれに該当するか分類する必要がある。その際、公益共益の区別が不明確な事業については公益とわかるような表現をしなければならぬ。IFUWとの関連については調査研究プロジェクトに代表を送ることで解決可能と考える。

(松岡 幸子)

〔東京支部〕共催 講演会
〔神奈川支部〕

(08・6・24)

六条院女楽の装束

―赤青対比の身分的倒錯から何を讀み取るか―

講師 森田 直美氏



日本女子大学大学院研究科博士課程後期に在籍され、平安朝文学を中心に古典文学における色彩表現について多角的に研究されている二〇〇七年度JAUW国内奨学生の森田直美氏のお話を伺いました。

「源氏物語」の「若菜下」巻、六条院での女楽は早春の宵、紫の上、明石の上、女三の宮、明石女御という光源氏を取り巻く四人の女君がそれぞれ和琴、琵琶、琴、箏を担当し華麗に奏でるさまが語られています。

森田氏はその時の女君たちと、女

君のお供である童女の衣装に注目し、そこから読みとれるいくつかのことについて話されました。女君たちの衣装は、紫の上は葡萄染の色濃い小桂に赤紫色の細長、明石の上は萌黄の小桂に柳の細長、女三の宮は桜の細長、明石女御は紅梅の表着、色わけは、紫の上が赤紫、明石の上は白に近い薄緑、女三の宮は桜色、明石女御は紅梅となります。童女たちの一番上に着る汗衫の色からみますと、紫の上の童女たちは桜、明石の上の童女たちは青磁色、女三の宮の童女たちは柳(薄萌黄)、明石女御の童女たちは蘇芳(濃い赤)となります。童女たちの衣装は女君たちの趣向が存分に発揮され贅をつくしたものでした。

森田氏はこの時代の特徴として、赤色は青色に対してより高貴な人のものであったことを強く熱心に述べられました。

今年には源氏物語が書かれて千年になるということで、「源氏物語千年紀」の行事や活動が各地で盛んに行われています。そのような折にこのような機会に恵まれ、お話を伺うことができましたことに感謝いたしております。

(糸原 園子)

〈東京支部観劇会〉

('08・8・15)

横浜ローザ観劇記

8月15日、横浜赤レンガ倉庫で五
大路子演ずるひとり芝居「横浜ロー
ザ」を鑑賞しました。会場に入ると、
淡谷のり子の歌「昨夜の男」が流れ
ていてなぜか懐かしさを覚えまし
た。物質的には恵まれないながら、
人々に「心」があつた時代だったか
らでしょうか？ その同じ時代を生
きた人に「赤い靴の娼婦」「ハマのメ
リーさん」がいたので。生前の
ローザにお逢いになった方もあり



五大路子さんを囲んで

なのではないでしょうか？

幕が開きました。

横浜のとある雑居ビルの片隅に暮ら
す一人の老女「ローザ」、真夜中の3
時、忍び寄る老いの孤独と恐怖で眠
れない夜。救急車を呼んで寂しさを
紛らわせる。回想シーンへ：

女学生時代、結婚、夫の出征、激し
くなる戦争、終戦。

復員してきた夫はB級戦犯で沖繩
へ。すべてを失い頼れるものはわが
身だけ、ローザは生きるために外人
相手の娼婦になる。戦争に翻弄され
た涙と屈辱の人生が浮き彫りにされ
てゆく。そして、腰の曲がったロー
ザが白いドレスに身を包み、白塗り
に黒いアイシャドウ、一輪の真紅の
バラを見つめながら客席をゆっくり
歩き消えてゆく：

幕が降りても鳴り止まぬ「ローザ」
「ローザ」の観客の声に呼び戻された
五大さん、感極まって両手で顔を被
いながら花道を舞台から去っていき
ました。

険しい時代を生き抜いた女の壮絶
な半生を演じきって達成感でいつぱ
いだったのでしょうか。私たちもその
生きざまから多くのことを学び、

後々の世代にも伝えて生きたいもの
です。来年も再来年もまた、ローザ
に会いたい。戦争がひとりの女の一
生をこのように変えてしまったその
ことを銘記しながら。

(児林英子・中山正子)

〈東京支部講演会〉

('08・11・26)

「アサーションという自己表現
と自己尊重の

人間関係のために」

講師 平木 典子氏



アサーションって何だろう？ 人
間関係の苦手な私にピッタリのテー
マのようだ！というわけで、仙台か
ら東京に移転してはじめて講演会に
参加した。

まず、アサーションの定義の説明

があった。自己尊重の自己表現はこ
とだけでなく非言語をも活用した
相互交流であり、心理状態としてあ
りのままであること。特に衝撃的だ
ったのは、アメリカで心理療法（行
動療法）の一技法として開発され
たが、人間回復運動を支える理念と結
合して、人種差別、女性差別への非
暴力の主張となったという歴史的、
社会的背景の解説は、平木氏ご自身
のアメリカでの学びや体験を交えて
のお話で、よく理解できた。

さらに、「人間はちがって当たり
前」という前提に立つてコミュニ
ケーションをとることの大切さを、
図形や小説「羅生門」の事例を用い
て、ものの見方、理解の仕方のちが
いが私たち自身にもあることを気づ
かせてくださった。

コミュニケーションには、①非主
張的自己表現—自分を抑えて相手を
立てる②攻撃的自己表現③アサーテ
イブな自己表現（自分も相手も大切
にするやりとり）がある。最近では、
日本でも看護、学校教育、働く人の
メンタルヘルスの方法としてアサー
ションが用いられているが、アメリ
カでは①と②がトレーニングを受け
る人の半々であるのに、日本では①
が70%と多い。しかし、①をしてい

ると怒りがたまり、相手を恨んだり、八つ当たりしてキレたり、また、忍耐して自分を責めてうつになったりするという。

また、②は一時的満足を得られても、孤立化してしまったりする。

アサーションによる心の安定を得るには、所属と愛の欲求を充たす居場所づくり、自分が承認され、自己実現できる欲求が充たされることが大切である。

最後に辻信一著の「ハチドリのおとしく」を例にあげ、今私にできることを小さくてもやってみよう、がしあわせへの道であると結ばれた。

全体を通して、現代に生きる個人、団体にとって、また世界全体にとって大切なアサーションというお話で、たいへん有意義な講演会であった。

(向後 紀代美)



科学奨励委員会
東京支部
お茶の水女子大学

共催

(08・12・13)

「脳の高次機能をさぐる」

—子どもの脳のふしぎ—

講師 浜崎 浩子氏

平成20年12月13日イチヨウの葉のじゅうたんのきれいなお茶の水女子大学において、第8回自然科学講演会が開かれました。講師は第2回守田科学研究奨励賞の受賞者である浜崎浩子氏です。受賞後ご自分の仕事にさらにやりやすくなられたとのこと、新たにひじょうに興味深い分野の研究をスタートされており、その研究のお話でした。「脳の高次機能をさぐる—子どもの脳のふしぎ—」という題で、ヒヨコを使った研究成果を紹介されました。

新しい情報や知識を獲得する学習と、学習した情報を保持する記憶とは、と講演が始まりました。その記憶も、事実や出来事についての陳述記憶、何回もやってみることで起こる技術や習慣の非陳述記憶の違いを説明されました。覚えたりはするのにならぬのに最近しばしば起こる現象と、一度覚えたら忘れにくい(昔

とった杵柄)と記憶にも違いがあることが説明されました。この記憶に重要な脳の場所に、脳の海馬という場所があることが、ヒトの症例やねずみの実験で明らかになってきたことが紹介されました。浜崎氏のヒヨコのインプリンティングの現象を使った研究成果にもとづき、この海馬における学習・記憶のメカニズムに関し、脳の中で、いつ、どこで、何が起きているのか等の、とても興味深い講演でした。



かなり消えてしまいました。

インプリンティングに臨界期がある。発達、学習に伴い回路が成熟する。色の刺激が重要。など断片的に残っていますが：ヒトの脳で、起きていることにつながる。

ないこと、興味深い話がたくさんありました。

高校生から、年配の方まで幅広い年齢のかたがたが、それぞれ自分の脳で起きていることを想像しながら、熱心に講演を聴き、たくさん質問ができました。

(科学奨励委員会 熊谷 晶子)

〈源氏物語を読む会〉

比較・宇治旅行

(08・10・7〜10・9)

宇治十帖ゆかりの旅は、車窓から逢坂の関跡見物が始まった。石山寺はゆっくりと各自で歩き廻り、「源氏の間」に紫式部像を見た。いたるところ天然記念物の巨岩が露出して、石山寺というの納得である。浮御堂へ。琵琶湖の景色も横にはった松もすばらしく、水から出ている柱で支えられた浮御堂は筏に乗っている気分だった。バスは延暦寺に到着。夕食はおいしい精進料理をいただいた。翌朝六時半から会館に宿泊した人だけの特権である根本中堂の動行に参加。真暗な中、千二百年守り継がれたという「不滅の法灯」が点つて秘仏の薬師如来の前立ちが輝いていた。西塔付近では延暦寺にしか

いというピンクのミカエリ草を見て、僧が何日間も立ったままで修業するという堂を静かに通った。横川へ。横川僧都のゆかりの場所、三大師堂で慈覚、伝教、弘法大師さまを拝んだ。峰道レストランで昼食後、許波多神社、宇治陵総拝所を見て、



平等院にて

三室戸寺へ。三室戸寺では、浮舟の古蹟の碑があった。車窓から石に彫られた阿弥陀如来を見て、菟道稚郎子墓を坂上先生の勇断で間近に見物、静山荘へ。三日目は徒歩組とタクシー組に分かれ、橋姫神社、橋寺放生院で宇治橋断碑を見て、国宝の宇治上神社、恵心院などを見て、静

山荘で昼食後バスで平等院へ。ガイドの説明で十円玉の建物と再認識。最後の法性寺は一般人はなかなか入れない。普通の小さい家のような寺で女性の寺守りが国宝の観世音菩薩をはつきり見せてくれず、坂上先生が「前の住職はもつと明るくしてください」との一言でスイッチが入り無事拝観。三十数名の優等生と才女一行の旅は平穩に終わった。

(大島 杏子)

〈社会福祉委員会主催〉

ねむの木村訪問記

(08・11・14)

宮城まり子さんが1968年に認可を受け静岡県浜岡に創設したねむの木学園は、現在掛川駅から車で約20分のねむの木村にある。

11月14日、社会福祉委員会の活動に、東京・静岡各支部の会員と一般参加者の計26人が掛川駅に集合。昼食後タクシーに分乗し、目的地に向かった。運転手さんによると、何でも日本一が大好きな前市長が熱心に浜岡から誘致したそう。

タクシーは丘を登り瀟洒な建物の前で止まった。小春日を浴びた白壁にはナイーブなパステルカラーの絵

が描かれ、赤い瓦の三角屋根を載せている。ピンクや水色の背もたれの椅子に座ってピンクのユニフォームの男性からお話をうかがった。

脳性麻痺の子を演じるにあたり、まり子さんは施設を見学。家庭不全の障害者にも義務教育を考えるようになった。まず養護施設を、次に公立学校のねむの木分校を実現。その後高等部も備えた私立の学園を経て、成人後も生活できる日本初の肢体不自由児療護施設へと発展させた。

各曜日毎に美術、茶道、音楽、ダンスのクラスが行われているそうだ。

全国の児童相談所を通して入所し、現在5歳から6歳、50歳代の54人が生活。父母会はあるが正月も帰



省先のない天涯孤獨な人が多いという。今後ねむの木村は健常者・老人も生活できる日本一の福祉文化村を目指しているそうだ。木工の部屋、染物の部屋、心の部屋が並ぶ建物内を見学。その後左右に子供たちの実習のお店が点在する緩い坂をゆっくりと吉行淳之介文学館へ。

次の目的地ねむの木子供美術館は木立をぬけた明るい原っぱに建っている。入口は大きなどんぐり型の建物。集中感覚教育の成果であろう。誰に習うわけでもなく、心の原風景をそのまま表現した子供たちの作品の力強さに圧倒された。作品の絵葉書とともに暖かいものをポケット一杯に詰め込んで帰途についた。

なお12月13日に行われた社会福祉委員会による「ねむの木村見学を終えて」の勉強会に参加させていた。内容の濃い説明とともに、根拠条文も明示されたので学園の紆余曲折がよく理解できた。改めて「国がやらないのなら私がやる」と一つ一つの困難を克服し続けた宮城まり子さんの力を知った。ねむの木学園の詳細については後日社会福祉委員会より冊子が出る予定ですので、ぜひご覧ください。

(松岡 幸子)

新春のつどい 国内奨学金贈呈式

(09・1・10)

1月10日、今年度の奨学生を迎えて新春のつどいが京王プラザホテルで開かれた。当日は前日とは打って変わって青空が広がり、吹く風は身が引き締まるほど冷たく、清々しい新春の輝きを感じさせてくれる日であった。

房野会長の開会のご挨拶に続き10名の奨学生の奨学金贈呈式が行われ、各奨学生は受賞の喜びと感謝の意を表し、自分の研究内容や将来の抱負について語った。

受賞者の一人、森美由貴さんはクラグエにつくノミの群集構造解明に取り組み、これを生物の多様性保全研究に繋げていきたいと話されたが、クラグエにつくノミがあるのかという驚きと、それが研究対象の材料になり得るということに大変興味深いものを感じた。現代のように学問領域が大きく拡がりかつ細分化された時代にあつては、どの研究に奨学金を出すかを決定するのは大変難しいものがあるとうことが推察させられた話でもあつた。

社会福祉奨学生の平塚恵里子さん

は、ご自身障害を持ちながら将来は弁護士として障害者の人権にかかわる仕事をしたいとのこと。社会的弱者の側に立つて頑張りたいという姿勢に感銘を受けた。

この後、新春に相応しい曲目のバイオリン演奏に続いて会食に移った。メキシコ大学女性連盟会長来日時のお土産であつたテキーラの差し入れなどもあり、奨学生を囲んで美味しい中華料理をいただきながら楽しい語らいのひと時がもたれた。

昨年は三人もの日本人ノーベル賞受賞者が出るという快挙があつたが、将来JAUWの奨学生の中から日本人初の女性ノーベル賞受賞者が出ることを夢みながら帰途についた。

(竹井香州子)



※この奨学金の一部として東京支部から十万円を寄付しています。

サークル紹介

★英語講座

●第一・第三金曜日

午前十時～十二時

●大久保地域センター三階

●講師・松本節也元法政大学教授

「さし絵入り英国史」を講読中。

講師による詳細な訳註、ヒアリング用のテープ、参考資料をもとに

輪読しています。

●連絡先・中間美砂子

(☎0431-27515385)

★楽しい俳句会

●第三水曜日

午後一時半～三時半

●津田塾大学同窓会・会議室

●講師・柴崎富子会員

柴崎先生の熱心なご指導のもと楽しく俳句を作っています。

メンバーを若干名募集中です。

●連絡先・小池朋子

(☎045190219730)

★源氏物語を読む会 (I)

●第三・第四水曜日

午前十時半～十二時半

●津田塾大学同窓会・会議室

●講師・坂上栄美子会員

宇治十帖「東屋」を読んでいます。

●連絡先・平田宏子

(☎041714311573)

★源氏物語を読む会 (II)

●第二・三・四火曜日

午前十時～十二時

●津田塾大学同窓会・会議室

●講師・坂上栄美子会員

宇治十帖「浮舟」に入りました。

●連絡先・中山律子

(☎03133336146218)

★水墨画教室

●第二木曜日

午後一時半～三時半

●JAUW事務所会議室

●講師・日高絹子(絹紅)会員

初心者歓迎

若干名余裕があります。

●連絡先・森川淳子
(☎045158313430)

◆会費納入のお願い

大学女性協会はみなさまの会費で成り立っています。会費未納の方は、用紙の「振込みのご案内」を参照の上、どうぞお早めにお振り込みくださいますよう、お願い申し上げます。



2009年
東京支部総会のお知らせ

・五月十六日(土) 一時~二時
・津田ホール一階会議室

(千駄ヶ谷駅前)

・記念講演 二時半~四時
「中年女の生きる道」

講師 土屋賢二氏

【講師紹介】(本人によるプロフィール)「1944年岡山県生まれ。東京大学文学部卒。お茶の水女子大学教授(哲学)。本業のかたわら、本の整理とユーモアエッセイ執筆とに取り組んでいるが、どちらもうまくいっていない。人間関係もうまくいっていない。こうした逆境の中にありながら、五十歳のときユーモアエッセイ集『われ笑う、ゆえにわれあり』(文春文庫)を皮切りに、『妻と罰』『ツチヤの資格』(いずれも文藝春秋)、哲学書『ツチヤ教授の哲学講義』(岩波書店)など十八冊を数え、他の著者の本も合わせる膨大な数にのぼっている。」

「週刊文春」にもエッセイを連載されていらつしやる先生のユーモア溢れる講演をお楽しみいただけることと思います。

※支部会員外の方も誘ってください。

参加費無料

※支部総会については、別紙にてお知らせいたします。

2008年度東京支部新入会員 (敬称略)

(2009年1月現在)

氏名	出身校	氏名	出身校
石内大尾香岸	東京教育大	高宮美奈子	明治・クラフフィールド
原野村礼真浩雅	東京	宮井奈州	津
大尾香岸	東京	竹奈深若和	東京工芸大・モリタナ州立大
	茶	良沢林昌安	同慶社
	茶		院
	茶		

お悔やみ申し上げます

(敬称略)

氏名	出身校	訃告日	備考
坪山中山高	武蔵	2007年7月23日	ご逝去
下西井崎藤山浦	武蔵	2008年3月31日	ご逝去
高井崎藤山浦	武蔵	2008年4月3日	ご逝去
山崎藤山浦	武蔵	2008年6月21日	ご逝去
向松	早稲田	2008年7月17日	ご逝去
	慶	2008年8月24日	ご逝去
		2008年10月22日	ご逝去
		2009年1月4日	ご逝去

東京支部からのお願い

東京支部の会員が減少しております。ご家族、お友だちをぜひお誘いください。また、東京支部の運営に携わってくださるかたを求めています。事務所までどうぞご連絡ください。(☎03-3358-2882)

★ご寄付いただきました。お礼を申し上げます。

熊切富子氏 一万円

奥村友子氏 一万六千円

源氏物語を読む会(Ⅰ) 五万円

源氏物語を読む会(Ⅱ) 五万円

英語講座 五千元

水墨画教室 五千元

★寄付しました。

国内奨学金 十万円

国連難民高等弁務官事務所 五万円

★住所等ご変更の場合は事務所までご連絡ください。

★使用済みの切手を事務所までお送りください。

(編集後記)

今号は、シンポジウム報告、講演会、観劇記、訪問記、旅行記など盛り沢山な内容になっております。原稿をご執筆いただきましたみなさまに改めて感謝申し上げます。

新しい年度が始まります。みなさま、様々な行事、催し物にぜひご参加ください。今年がよい一年でありますように。

(H・O・S)